

40. ラ・フランスの棚栽培における中間台の生育特性

福島県果樹試験場栽培部・平成7～11年度試験研究成績書参考文献

1. 部門名 果樹－ナシ－形態・生育相 分類コード04－03－05000000

2. 担当者 齋藤義雄・佐藤 守

3. 要 旨

中間台木を利用することで、穂品種の生育特性が変化する。そこで、棚栽培における‘ラ・フランス’の安定生産に適した中間台木品種について、‘OHF97(オールド・ホーム×ファーミングデール97)’、‘オールド・ホーム’、‘ブルー・アルディー’、‘ウインター・ネリス’及び、台木に直接‘ラ・フランス’を接いだ場合を対照に比較検討した。なお、台木には‘ホクシヤマナシ’の実生を用いた。

(1) ‘ブルー・アルディー’は他の中間台木に比べ、累積収量(1993年から7年間)が最も多く、対照よりも6.2%増収であった。また、樹幹面積当たりの収量(生産効率)でも他の中間台木に比べ高く推移した。

(2) ‘ブルー・アルディー’は他の中間台木及び対照に比べ、夏季せん定、冬季せん定量とも最も少なく、せん定作業時間の短縮が可能であると考えられた。

(3) ‘ブルー・アルディー’は他の品種に比べ、1果重、RM示度とも勝り、対照とも同等かそれ以上であった。また、1999年の追熟果での内部褐変は、‘ブルー・アルディー’だけに発生が認められなかった。

(4) 以上の結果から、‘ブルー・アルディー’は、収量および生産効率が高く、栽培管理(特にせん定)の省力化、果実品質が優れることから、‘ラ・フランス’に適した中間台木と判断された。